

記者発表資料

利根川本川のダムの「貯水率」の表記が変更になります

利根川本川の国・水資源機構が管理する、治水と利水を目的とする多目的ダムは洪水を貯める容量を確保するため、毎年7月1日より9月30日までの期間、利水のために貯留可能な容量が制限されます。*

このため、利根川本川のダムの貯水率の表記が変わりますので、お知らせします。

* 矢木沢ダム（水資源機構）は変更なし

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局
関東地方整備局 河川部
河川環境課

河川環境課長 伊藤 和彦 (内線) 3651

建設専門官 齋藤 充則 (内線) 3652

水政課

水政調整官 太田 浩徳 (内線) 3515

水政課長 石田 武史 (内線) 3551

課長補佐 山本 典 (内線) 3557

住所：埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

さいたま新都心合同庁舎2号館

電話：048(601)3151(代表)

独立行政法人水資源機構

総務部調整役 谷 雅典

総務部広報課 萩岡 武史

住所：埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

電話：048(600)6513

貯水率の計算式

$$\text{当日の貯水量} \div \text{有効容量}$$

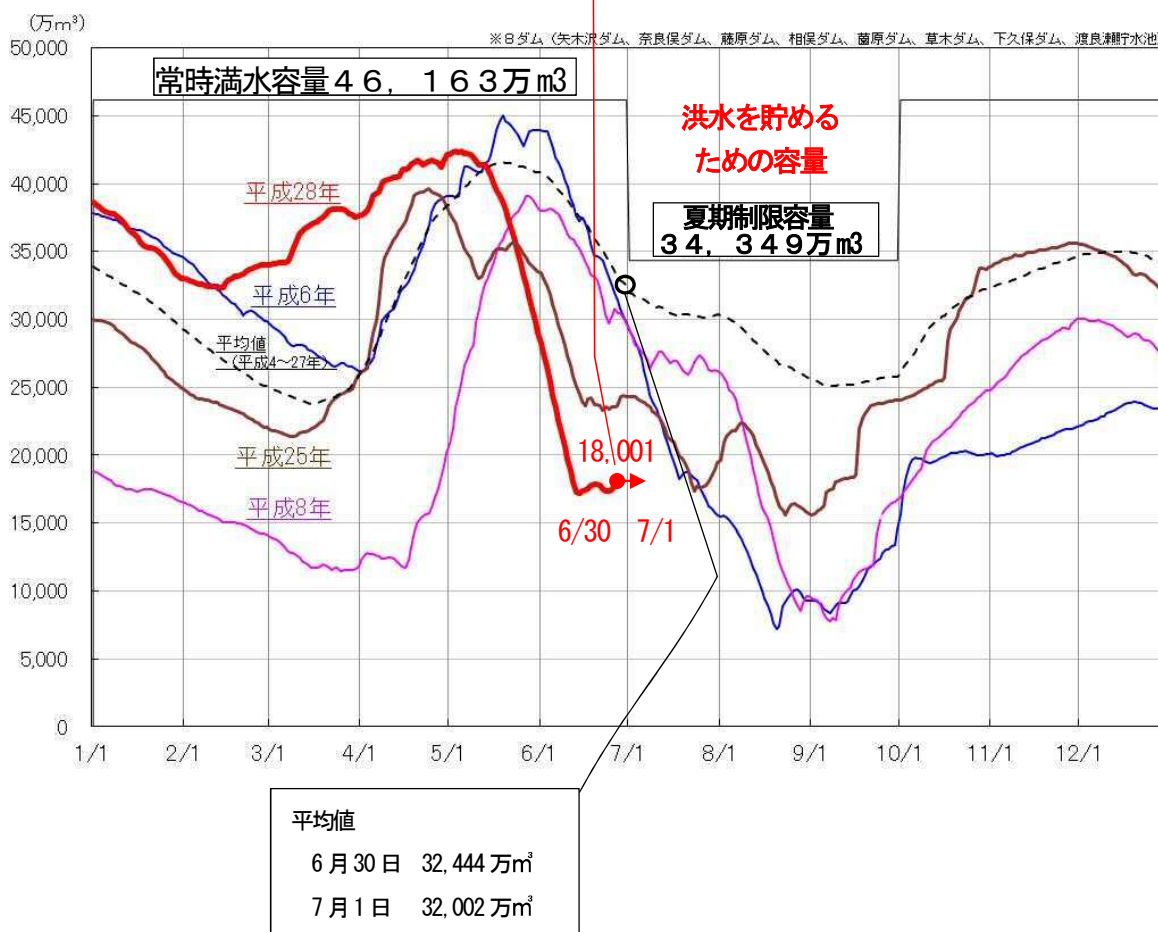
(6月30日までは、常時満水容量の46,163万³m)

(7月1日からは、夏期制限容量の34,349万³m)

- 6月30日と7月1日の貯水量が、同じ18,001万³mだった場合に貯水率は…

$$\text{6月30日の貯水率} = \frac{18,001 \text{ 万}^3\text{m}}{46,163 \text{ 万}^3\text{m}} = 0.389 \doteq 39\%$$

$$\text{7月1日の貯水率} = \frac{\text{〃}}{34,349 \text{ 万}^3\text{m}} = 0.524 \doteq 52\%$$



- 8ダム貯水量の平均値の貯水率を表すと、下記の通りとなります

6月30日平均値の貯水率

$$= \frac{32,444 \text{ 万}^3\text{m}}{46,163 \text{ 万}^3\text{m}} = 0.702 \doteq 70\%$$

7月1日平均値の貯水率

$$= \frac{32,002 \text{ 万}^3\text{m}}{34,349 \text{ 万}^3\text{m}} = 0.931 \doteq 93\%$$

7月1日からの利根川上流8ダムの貯水状況の変更イメージ

※6月30日と7月1日が同じ貯水量であっても以下のように貯水率は変更されます。

【6月30日まで】

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	2,477	21
奈良俣ダム	8,500	4,120	48
藤原ダム	3,101	1,469	47
相俣ダム	2,000	1,060	53
藺原ダム	1,322	300	23
下久保ダム	12,000	5,123	43
草木ダム	5,050	2,232	44
渡良瀬貯水池	2,640	1,220	46
8ダム合計	46,163	18,001	39

【7月1日～9月30日】

洪水を貯める容量を
確保するために有効
容量が変更

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	2,477	21
奈良俣ダム	7,200	4,120	57
藤原ダム	1,469	1,469	100
相俣ダム	1,060	1,060	100
藺原ダム	300	300	100
下久保ダム	8,500	5,123	60
草木ダム	3,050	2,232	73
渡良瀬貯水池	1,220	1,220	100
8ダム合計	34,349	18,001	52

※貯水量は、仮の値入力

※矢木沢ダムについては、7月1日以降の有効容量の変更無し。

URL：首都圏の水資源状況について（利根川水系のダムの貯水状況）

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/river_shihon00000111.html